

# SENKO REPORT

## 第95期 報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

- 1P 株主の皆さまへ
- 3P 部門別の概況
- 5P 中期経営計画について
- 6P 事業トピックス
- 7P CSR活動のご紹介
- 9P 財務ハイライト
- 10P 連結財務諸表
- 13P 会社概要
- 14P 株式情報



**SENKO**

証券コード 9069

# 中期経営計画の目標達成に向けて グループの力を結集してまいります。



代表取締役社長 **福田 泰久**

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
ここに第95期における営業の概況と決算について  
ご報告申し上げます。

## 新規顧客の拡大とM&Aの効果で 増収増益となりました

当期の日本経済は、東日本大震災の発生直後に輸出・生産が大幅に落ち込みましたが、被災設備の復旧やサプライチェーンの回復により、景気は震災前の水準まで着実に回復してまいりました。しかしながら、海外経済の成長ペースの鈍化や円高による輸出産業への影響、原油価格の高騰、電力不足問題など先行き不透明な状況が続いております。

物流業界におきましても、震災の影響で大幅に低下した物量は急速に回復したものの、円高やタイの洪水被害による輸出・生産への影響などから、その後は低調に推移いたしました。

このような環境の中、当社グループはお客さまの震災復旧・復興対応のご支援を経営の最重点課題と位置付けるとともに、平成22年4月にスタートさせた「Moving Global」をコーポレートスローガンとする中期経営三カ年計画2年目の年として、国内外で積極的な経営を進めてまいりました。

国内では、当社最大の物流拠点「野田第1PDセンター」

(千葉県)「野田第2PDセンター」(同)を開設し、大手総合スーパーの物流業務を行うとともに関東地区での物流サービスを強化いたしました。さらに、「日向PDセンター」(宮崎県)、「北広島PDセンター」(北海道)も開設いたしました。また、ケミカルタンカー「扇奥羽丸」を就航させました。一方、海外では、米国ケンタッキー州に「ケンタッキー物流センター」を開設。現地企業や日系企業向けに業務を開始いたしました。

また、商事・貿易事業強化の一環として、包装資材・食品・酒類・生活雑貨の総合商社「株式会社スマイル」を、新たな物流サービス分野への事業展開を図るため、楽器・精密機器・重量物・医療機器の輸送などを行う「中国ピアノ運送株式会社」を、子会社としてグループに迎えました。

震災の復旧需要をはじめ、災害関連商品や節電関連商品などの既存物量が増加したことや、(株)スマイルを子会社としたこと、新規顧客の積極的な開拓を行ったことなどにより、連結営業収益は2,703億61百万円と対前期比12.2%の増収となりました。

一方、利益面におきましては、燃料費上昇などのマイナス要素があったものの、増収効果とコスト改善効果により、連結営業利益は82億74百万円と対前期比35.6%の増益、連結経常利益は83億33百万円と対前期比30.7%の増益となりました。連結当期純利益につきましては34億78百万円と対前期比53.8%の増益となりました。

## 記念配当2円を含め、 当期年間配当は1株12円といたしました

当社は将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆さまへの利益還元を

充実させるため、安定配当に加えて業績連動を考慮した配当の実施を利益配分に関する基本方針としております。

当期の期末配当金につきましては1株当たり6円(普通配当5円、創立65周年記念配当1円)とし、中間配当金6円(同)と合わせて年間配当金12円といたしました。

## 高品質でコストパフォーマンスの高いサービスを グローバルに提供してまいります

今後の日本経済は、新興国に牽引された海外経済の成長率の高まりや、震災復興関連需要の顕在化などで、緩やかな回復が期待されます。しかしながら、国内外で多くの景気下振れ要因があり、予断を許さない状況です。

こうした環境の中、当社グループは中期経営ビジョンに基づき、社会との共生を図り、従業員の成長志向を育み、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスをグローバルに提供する「流通情報企業」を目指してまいります。同時に、グループ人材の意欲と健康の向上・能力アップを図る中で、法令遵守・環境対応・安全重視を柱として、企業としての社会的責任(CSR)を全うしていく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 免責事項

本報告書で記述されている将来についての事項などは、予測しない経済状況の変化など様々な要因の影響を受けるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

## 部門別の概況

### Outline of Business Segment

当期の成果を部門別(セグメント別)に報告します。

#### ●部門別の事業収入

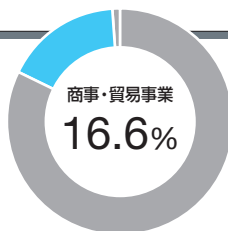
単位：億円

	前期	当期	増減率
物流事業	2,115	2,225	5.2%
商事・貿易事業	266	448	67.9%
その他事業	28	31	7.2%
合計	2,410	2,704	12.2%

#### 商事・貿易事業

石油販売、商事販売、貿易事業などの事業から構成される部門です。

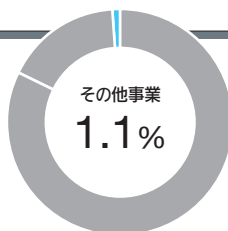
当期は㈱スマイルのグループ会社化、㈱丸藤の売上拡大及び貿易事業の拡大、石油販売事業の売上増加などにより、事業収入は448億円と対前年同期比67.9%の増収となりました。



#### その他事業

情報処理受託、自動車修理、保険代理業などの事業から構成される部門です。物流事業、商事・貿易事業の2部門に含まれない事業を主要サービスとしております。

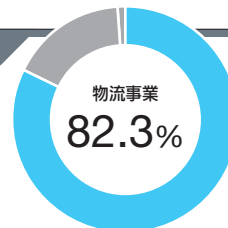
当期は情報処理事業の売上増加などにより、事業収入は31億円と対前年同期比7.2%の増収となりました。



#### 物流事業

自動車運送事業のほか、鉄道利用運送、海上運送、国際運送、倉庫業、お客さまの構内における原材料および製品の包装・移動等の作業、物流センターの運営などの事業から構成される部門です。

当期は住宅物流事業での仮設住宅などの震災復旧需要、流通ロジスティクス事業での、復旧に関わる住関連商品や節電関連商品や暑さ軽減商品などの既存物量が増加したこと、さらには新規顧客の積極的な開拓による売上拡大などがあり、事業収入は2,225億円と対前年同期比5.2%の増収となりました。

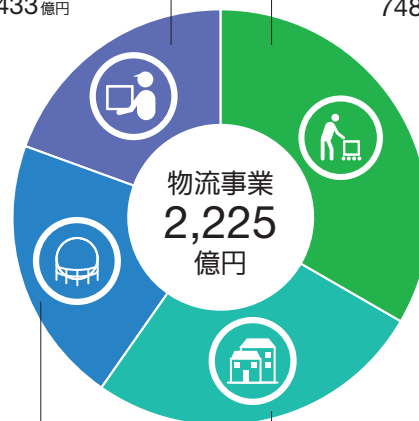


#### その他物流事業

19.4%  
433億円

#### 流通ロジスティクス事業

33.6%  
748億円



#### ケミカル物流事業

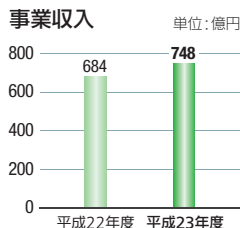
20.7%  
460億円

#### 住宅物流事業

26.3%  
585億円



## 流通ロジスティクス事業



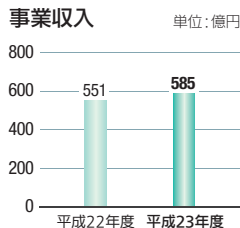
事業収入は**748億円**と対前期比**9.4%**の増収となりました。

量販店や百貨店、専門店など、小売店さま向けの物流サービスを行う事業です。

当期は大型設備投資の効果があったことや、量販店、小売店向け物流において、震災復旧に関わる住関連商品、災害関連商品や節電関連商品、暑さ対策商品の物量の増加などがあり、増収となりました。



## 住宅物流事業



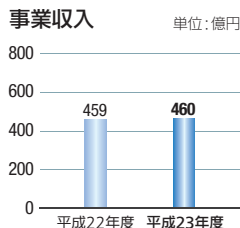
事業収入は**585億円**と対前期比**6.2%**の増収となりました。

住宅メーカーさまの製品を工場から建設現場へ輸送するサービスや、住宅資材メーカーさまの住宅資材の輸送などの物流サービスを行う事業です。

当期は積極的な拡販により住宅資材メーカーさま向けなどの売上を拡大したことや、仮設住宅、震災復旧に関する資材の輸送があったことなどにより、増収となりました。



## ケミカル物流事業



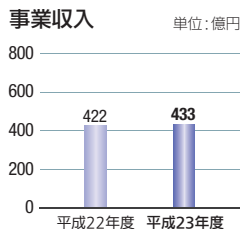
事業収入は**460億円**と対前期比**0.2%**の増収となりました。

プラスチックなどの原料となる樹脂やプラスチック成型品、加工品の輸送や、機械などに使われる潤滑油の輸送に関する物流サービスを行う事業です。

当期は震災による生産活動の落ち込みなどによる物量の減少があったものの、積極的な拡販や、大型設備投資の効果があり、増収となりました。



## その他物流事業



事業収入は**433億円**と対前期比**2.5%**の増収となりました。

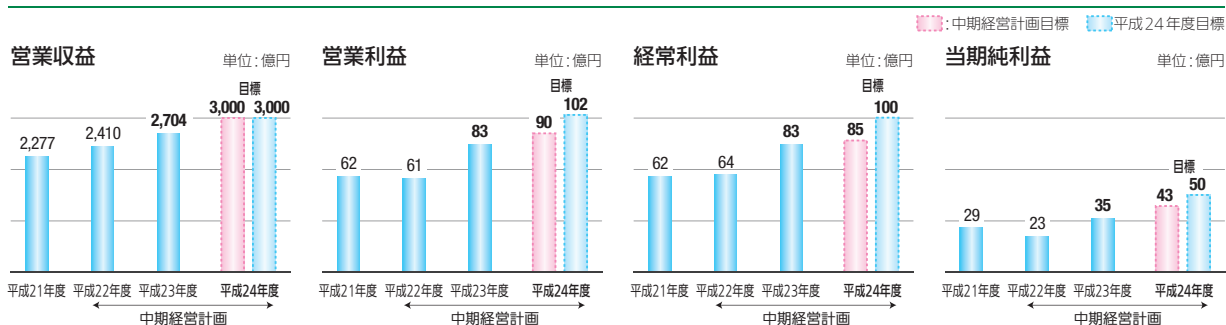
上記以外の物流サービス事業です。現在、当社グループが手掛けている代表的な物流サービスは、食品、電機・機械などの製品に関する物流、商社さまの商品の物流、引越サービスです。

当期は食品輸送や電機・機械輸送の分野で新規拡販を行ったことが寄与し、増収となりました。

# Moving Global

物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える。

## 経営目標の状況



中期経営計画で策定しました来期末の目標に対しまして、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも、達成する見込みで推移しております。

## 商事・貿易事業

当社は中期経営計画の中で、商事・貿易事業の拡大に取り組んでおり、平成21年度に214億円だった事業収入は、中期経営計画の最終年度となる今年度には659億円と3倍超の増収を見込んでおります。

当社は単に商品を販売する事業以外に、物流事業者として商流※に物流を加えた新しいビジネスモデルも提供しております。これは、商品企画から仕入れ、輸出入、輸送、保管、納品などの業務を一体化してお客さまに提供することで、お客さまのサプライチェーン全体の効率化を図るものです。

昨年、流通商社である㈱スマイルを子会社いたしました。今後は貿易部、センコー商事(株)、㈱丸藤を合わせ、商流・物流一体化ビジネスを積極的に展開する考えです。

※ 商流: 商的流通の略。物の物理的移動を指す物流(物的流通)に対し、売買などの商取引による所有権や金銭の移転などを指す。

単位: 億円

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(予想)
商事・貿易事業の事業収入	214	267	448	659
全営業収益に占める比率	9.4%	11.1%	16.6%	22.0%

### 安定輸送と事業拡大を目的に ケミカルタンカー「扇奥羽丸」が就航

当社はケミカルタンカー「扇奥羽丸」(498トン)を建造し、平成23年11月11日から就航させました。国内各港を巡航し、合成樹脂メーカーなどにさまざまな液体化学用品輸送のサービスを提供。国内ケミカル船業界の輸送力が低下していることや、平成24年度からのケミカル製品輸送の船型条件格上げを受けて、ケミカル製品の安定輸送と事業拡大を図るために建造いたしました。さまざまな荷主のあらゆる製品に対応できる「タイプII」と呼ばれる仕様。環境に配慮した新型エンジンを搭載し、窒素酸化物(NOx)の排出量低減を実現いたしました。安全航海を徹底するため、当社独自の動態管理システムと気象海象の変化に対応した警報システムを導入しております。船名は東日本大震災の被害を受けた東北地方の1日も早い復興を願い、「扇奥羽丸」としました。



### 中国ピアノ運送(株)を子会社化 事業融合で新物流サービスを提供

当社は平成24年1月、中国ピアノ運送(株)(広島市)の全株式を取得し、同社を子会社化しました。同社は昭和51年に設立、中国・四国地区を地盤としております。社名の通り、設立当初はピアノ輸送を専門としておりましたが、現在はピアノ輸送で培ったスキルや事業基盤を活かし、精密機器、金庫・大型機器などの重量物、医療機器の輸送や保管、さらにはピアノや家具の修理まで幅広く手掛けております。

今回の子会社化によって、精密機器物流などの深耕を図る考えです。さらに、同社の精密機器・重量物やピアノ輸送に関する特殊スキル・ノウハウと、当社の持つ物流機能やネットワークを融合させ、新たな物流サービスとして、精密機械業界、音楽・楽器業界への事業展開を進めてまいります。



### 食品メーカー3社の共同配送を受託

当社は近年、食品物流の拡大にも力を入れておりますが、平成24年4月から、カゴメ株式会社さま、株式会社ミツカンさま、日清オイリオグループ株式会社さまの共同配送の業務を開始しました。

3社は以前より「お得意さまへの物流品質の向上と環境への配慮」を目的とした共同配送を、全国で順次展開されております。今回、九州7県のエリアで新たに共同配送をスタートされることになり、3社の目指す共同配送を実現できる物流事業者として当社にご用命いただきました。九州の共同

配送により、3社の物流が効率化され、CO<sub>2</sub>排出量が以前に比べ25%削減される見込みです。

今後も荷主さまの物流効率化・物流品質向上への取り組みや、環境問題への意識の高まりを受けた様々なニーズがあると考えられますが、当社の長年の経験とノウハウでお客さまの期待にお応えしてまいります。



共同配送の拠点となる福岡PDセンター

## CSRにも積極的に取り組んでいます。

### 「法令遵守」 体制の高度化

企業の継続的な事業運営、企業の存続に関わる適法性と透明性の確保を徹底。内部統制活動の運用体制の高度化を推進するとともに、リスクマネジメント体制を構築することで、企業の社会的責任を全うします。

### 「環境対応」 施策の推進

物流業が環境に対して果たすべき役割は多大であると認識し、数値目標を掲げてCO<sub>2</sub>削減と省エネルギー施策、グリーン物流を推進。環境先進企業を目指した「センコーEcoイノベーション2012」活動を推進します。

### 「安全重視」 体制の確立

「完全<sup>ゼロ</sup>0災職場の確保」の実現に向けて、車両事故・労働災害発生率平成21年度比30%削減の中期目標を設定。安全マネジメントシステムのPDCAサイクルを通じて、管理・業務リスクの発見と低減に努めます。

## モーダルシフトへの取り組み

当社はCO<sub>2</sub>削減やエネルギー使用量の削減、リサイクルの推進などに取り組んでおり、中でも、お客さまと連携して自動車輸送を鉄道輸送や海上輸送に切り替えてCO<sub>2</sub>の排出を大幅に低減するモーダルシフトを進めております。鉄道輸送では31ftの大型鉄道コンテナの利用、海上輸送では新造船の導入などにより輸送の効率化を図っております。

平成23年度は海上輸送によるモーダルシフトで、CO<sub>2</sub>排出量削減に寄与する優れた取り組みとして、当社のお客さまである株式会社紅乙女酒造さまとの取り組みが評価され、「エコシップモーダルシフト事業優良事業者表彰」を受賞いたしました。

これは、工場から需要地倉庫への在庫補充輸送に関して、

トラックを使用した輸送を海上輸送に切り替えることで1回当たりの輸送量を増大させ、補充回数を削減するもので、以前と比較してCO<sub>2</sub>排出量は47.3%削減されました。



認定証



## ■ 当社の交通安全研修施設で関西大学・社会安全学部が体験実習

当社の交通安全研修施設「クレフィール湖東」(滋賀県東近江市)は、平成24年2月20日から25日まで、関西大学・社会安全学部の2年生を対象とした必修科目「社会安全体験実習」を受け入れました。本実習は、平成22年に設置された同学部の重要な科目の1つで、社会安全問題に関する問題意識や現実感覚を養うため、学外施設で行う体験実習です。

実習ではクレフィール湖東のインストラクターが講師を務め、免許を保有する学生の皆さんは実際に走行コースを運転。自動車の特性や挙動、夜間走行時の危険などを体感し、危険や危機の察知・予知を体験いたしました。また、免許を持たない皆さんは、インストラクターの運転する車の助手席に乗り、同様の体験をいたしました。

受講した学生の皆さんからは「カーブ走行時のスピードが速すぎることに気づいた」「車の死角・スピードの怖さを体感した」など、危険な状況を疑似体験することで得られた感想が多数寄せられました。クレフィール湖東での同大学の社会安全体験実習は、今後も年に1回定期開催されます。



社会安全体験実習の様子

## ■ 徹底教育で中国でも高い物流品質を実現

当社では国内の社員教育や訓練について、現場第一線で働くドライバーやリフトオペレーターを指導する「トレーナー制度」を設け、安全品質の向上に努めております。

一方、海外でも日本と同様の物流品質を提供し、日本企業の海外展開をサポートするため、教育や訓練を充実させております。

例えば中国の現地法人(上海扇拡国際貨運有限公司)では、週・月ごとに実施する車両の点検整備を、毎日の乗務前にも実施。路上で故障を起こして配送が遅れる中国事業者が多い中、きめ細やかな車両整備を実施しております。

また、当社が取り扱う商品には、配送時間に制限がある医療用機器などもあり、道路事情が悪い中国国内でも、安

全に遅配なく届けるための車両保守・運行管理を徹底させております。

さらに、お客さまとのコミュニケーション向上策として、日本語や英語での電話対応の勉強会などを実施し、ほとんどの従業員が日本語、英語での対応が可能となるなど、CS向上に取り組んでおります。



中国での車両点検

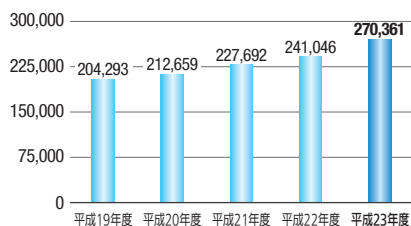
# 財務ハイライト

## Financial Highlight

		第91期 (平成19年4月1日～ 平成20年3月31日)	第92期 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	第93期 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	第94期 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	第95期 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)
連結営業収益(売上高)	(百万円)	204,293	212,659	227,692	241,046	<b>270,361</b>
連結営業利益	(百万円)	6,056	5,563	6,150	6,099	<b>8,274</b>
連結経常利益	(百万円)	6,060	5,533	6,232	6,375	<b>8,333</b>
連結当期純利益	(百万円)	3,061	2,848	2,946	2,261	<b>3,478</b>
連結純資産	(百万円)	49,845	52,130	55,123	60,604	<b>63,274</b>
連結一株当たり当期純利益	(円)	27.70	25.95	26.83	18.44	<b>27.65</b>
連結一株当たり純資産	(円)	454.03	470.48	489.99	469.14	<b>488.25</b>
貨物自動車(連結)	(台)	2,791	3,072	3,174	3,145	<b>3,218</b>
倉庫総面積(連結)	(m <sup>2</sup> )	1,521,930	1,857,047	2,015,977	2,078,957	<b>2,247,279</b>
配当金	(円)	8.00	8.00	8.00	10.00	<b>12.00</b>
配当性向(連結)	(%)	28.9	30.8	29.8	54.2	<b>43.4</b>

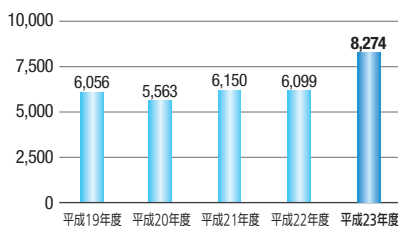
連結営業収益(売上高)

単位:百万円



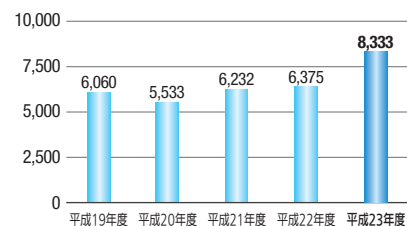
連結営業利益

単位:百万円



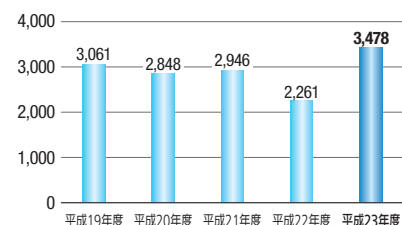
連結経常利益

単位:百万円



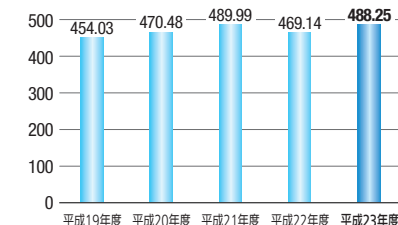
連結当期純利益

単位:百万円

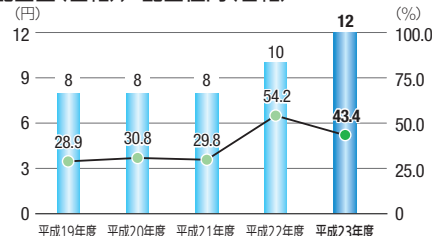


連結一株当たり純資産

単位:円



配当金(左軸)／配当性向(右軸)



# 連結財務諸表

## Consolidated Financial Statements

### ● 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	前連結 会計年度 (平成23年3月31日 現在)	当連結 会計年度 (平成24年3月31日 現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,394	13,354
受取手形及び営業未収入金	31,147	40,688
商品及び製品	719	4,087
販売用不動産	15	3
仕掛品	104	150
原材料及び貯蔵品	176	188
繰延税金資産	2,505	2,051
その他	3,798	3,782
貸倒引当金	△ 29	△ 53
流動資産合計	52,833	64,254
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	36,962	45,806
機械装置及び運搬具	4,964	5,814
工具、器具及び備品	851	859
土地	39,233	39,837
リース資産	3,351	3,591
建設仮勘定	1,340	229
有形固定資産合計	86,703	96,139
無形固定資産	4,387	7,235
投資その他の資産		
投資有価証券	2,984	4,754
長期貸付金	4,313	4,223
差入保証金	8,719	8,810
繰延税金資産	4,969	4,000
その他	12,599	13,709
貸倒引当金	△ 226	△ 280
投資その他の資産合計	33,359	35,217
固定資産合計	124,450	138,592
資産合計	177,284	202,847

科目	前連結 会計年度 (平成23年3月31日 現在)	当連結 会計年度 (平成24年3月31日 現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	22,603	32,297
1年内償還予定の新株予約権付社債	—	4,900
短期借入金	16,545	13,936
リース債務	1,608	2,066
未払法人税等	1,719	2,281
賞与引当金	2,853	3,125
役員賞与引当金	112	172
災害損失引当金	836	43
その他	7,643	9,260
流動負債合計	53,923	68,084
固定負債		
社債	7,000	12,000
転換社債型新株予約権付社債	4,900	—
長期借入金	32,331	40,422
リース債務	4,136	4,075
退職給付引当金	9,724	9,468
役員退職慰労引当金	37	66
特別修繕引当金	39	52
資産除去債務	292	316
その他	4,295	5,087
固定負債合計	62,756	71,489
負債合計	116,679	139,573
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	20,521	20,521
資本剰余金	18,782	18,782
利益剰余金	20,806	22,901
自己株式	△ 1,046	△ 1,049
株主資本合計	59,063	61,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	157
繰延ヘッジ損益	△ 9	156
為替換算調整勘定	△ 31	△ 44
その他の包括利益累計額合計	△ 38	269
新株予約権	107	149
少数株主持分	1,472	1,700
純資産合計	60,604	63,274
負債純資産合計	177,284	202,847

百万円未満は切り捨てて表示しています。

## ●連結損益計算書

単位:百万円

科目	前連結 会計年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	当連結 会計年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)
営業収益	241,046	<b>270,361</b>
営業原価	220,569	<b>245,426</b>
営業総利益	20,477	<b>24,935</b>
販売費及び一般管理費	14,377	<b>16,661</b>
営業利益	6,099	<b>8,274</b>
営業外収益	2,035	<b>1,882</b>
受取利息	214	<b>181</b>
受取配当金	870	<b>912</b>
団体定期受取保険金	249	<b>254</b>
その他	700	<b>533</b>
営業外費用	1,760	<b>1,823</b>
支払利息	1,187	<b>1,200</b>
団体定期保険料	278	<b>243</b>
その他	294	<b>379</b>
経常利益	6,375	<b>8,333</b>
特別利益	34	<b>174</b>
固定資産売却益	—	<b>174</b>
消費税免除益	34	—
特別損失	2,122	<b>723</b>
固定資産売却損	119	<b>302</b>
固定資産除却損	180	<b>190</b>
特別退職金	84	<b>179</b>
リース解約損	82	<b>50</b>
災害による損失	976	—
減損損失	451	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	130	—
投資有価証券売却損	62	—
出資金評価損	34	—
税金等調整前当期純利益	4,287	<b>7,783</b>
法人税、住民税及び事業税	2,708	<b>2,705</b>
法人税等調整額	△561	<b>1,525</b>
法人税等合計	2,146	<b>4,230</b>
少数株主損益調整前当期純利益	2,140	<b>3,553</b>
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△120	<b>74</b>
当期純利益	2,261	<b>3,478</b>

百万円未満は切り捨てて表示しています。

## ●連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	前連結 会計年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	当連結 会計年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,408	<b>9,341</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,389	<b>△ 16,466</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,405	<b>6,094</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 31	<b>△ 9</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 606	<b>△ 1,040</b>
現金及び現金同等物の期首残高	14,504	<b>14,394</b>
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	495	—
現金及び現金同等物の期末残高	14,394	<b>13,354</b>

百万円未満は切り捨てて表示しています。

## ●連結包括利益計算書

単位:百万円

科目	前連結 会計年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	当連結 会計年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,140	<b>3,553</b>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41	<b>180</b>
繰延ヘッジ損益	19	<b>181</b>
為替換算調整勘定	△29	<b>△16</b>
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	<b>△1</b>
その他の包括利益合計	△57	<b>343</b>
包括利益	2,082	<b>3,897</b>
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,205	<b>3,786</b>
少数株主に係る包括利益	△122	<b>110</b>

百万円未満は切り捨てて表示しています。

## ● 連結株主資本等変動計算書

単位：百万円

当連結会計年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)	株主資本					その他の包括利益累計額				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計			
平成23年4月1日 残高	20,521	18,782	20,806	△1,046	59,063	2	△9	△31	△38	107	1,472	60,604
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△1,383		△1,383							△1,383
当期純利益			3,478		3,478							3,478
自己株式の取得				△2	△2							△2
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						154	166	△13	307	41	228	577
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,094	△2	2,092	154	166	△13	307	41	228	2,669
平成24年3月31日 残高	20,521	18,782	22,901	△1,049	61,155	157	156	△44	269	149	1,700	63,274

百万円未満は切り捨てて表示しています。

## ● 個別財務諸表のハイライト

単位：百万円

貸借対照表	前事業年度	当事業年度
資産合計	157,964	173,572
流動資産	40,534	39,520
固定資産	117,430	134,052
負債合計	102,417	117,072
流動負債	42,530	48,861
固定負債	59,887	68,210
純資産合計	55,547	56,500
株主資本	55,460	56,246
評価・換算差額等	△ 21	105
新株予約権	107	149
負債純資産合計	157,964	173,572

百万円未満は切り捨てて表示しています。

単位：百万円

損益計算書	前事業年度	当事業年度
営業収益	174,299	182,586
営業原価	162,517	170,201
販売費及び一般管理費	6,987	6,786
営業利益	4,794	5,598
営業外収益	1,784	1,755
営業外費用	1,641	1,629
経常利益	4,937	5,724
特別損失	2,465	668
税引前当期純利益	2,471	5,056
法人税等合計	1,519	2,884
当期純利益	952	2,172

百万円未満は切り捨てて表示しています。

# 会社概要

## Corporate Data

### 会社概要

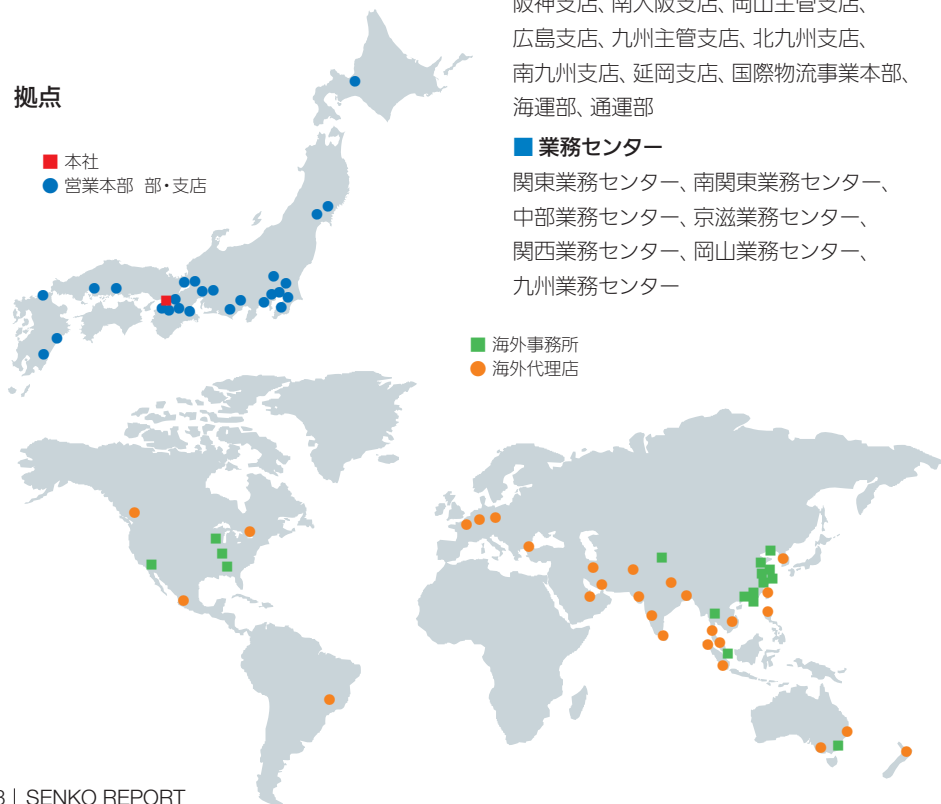
(平成24年3月31日現在)

商号 センコー株式会社  
 資本金 20,521,133,751円  
 創業 大正5年9月  
 設立 昭和21年7月  
 本社 〒531-6115  
 大阪市北区大淀中一丁目1番30号  
 電話(06)6440-5155(代表)

事業所 330カ所  
 従業員 8,640名  
 貨物自動車 3,218台  
 所有船舶 11隻  
 倉庫 2,247,279m<sup>2</sup>

※グループ合計

### 拠点



### 主要な事業所

(平成24年4月1日現在)

■ **営業本部・営業部**  
 住宅物流営業本部  
 ケミカル物流営業本部  
 ロジスティクス営業本部  
 百貨店物流営業部

#### ■ 部支店

札幌主管支店、札幌南支店、仙台主管支店、  
 仙台北支店、関東主管支店、茨城支店、柏支店、  
 埼玉主管支店、埼玉北支店、埼玉南支店、  
 東京主管支店、東東京支店、神奈川支店、  
 千葉支店、静岡主管支店、静岡西支店、  
 名古屋主管支店、小牧支店、三重支店、  
 京滋主管支店、京滋東支店、大阪主管支店、  
 阪神支店、南大阪支店、岡山主管支店、  
 広島支店、九州主管支店、北九州支店、  
 南九州支店、延岡支店、国際物流事業本部、  
 海運部、通運部

#### ■ 業務センター

関東業務センター、南関東業務センター、  
 中部業務センター、京滋業務センター、  
 関西業務センター、岡山業務センター、  
 九州業務センター

### 役員

(平成24年6月28日現在)

代表取締役社長	福田 泰久
代表取締役副社長執行役員	藤森 正三
取締役専務執行役員	手塚 武興
取締役専務執行役員	高橋 久男
取締役専務執行役員	田中 増雄
取締役常務執行役員	田中 健悟
取締役常務執行役員	山中 一裕
取締役常務執行役員	寺町 博文
取締役執行役員	森本 康司
取締役執行役員	川瀬 由洋
取締役執行役員	尾池 和昭
取締役常勤監査役	飴野 仁子
取締役常勤監査役	遠山 泰
取締役常勤監査役	岡本 克美
取締役常勤監査役	辻 正和
取締役常勤監査役	松本 雄三
取締役常務執行役員	宮津 純二
取締役常務執行役員	大迫 友行
取締役執行役員	山本 隆志
取締役執行役員	白木 健一
取締役執行役員	米司 博
取締役執行役員	谷口 玲
取締役執行役員	多田 政美
取締役執行役員	佐々木信郎
取締役執行役員	澤田 孝志
取締役執行役員	是沢 可人
取締役執行役員	室崎 行雄
取締役執行役員	鶴留 和治
取締役執行役員	伊藤 彰
取締役執行役員	瑠璃垣 潔
取締役執行役員	川崎 寛治
取締役執行役員	前田 龍宏

## 子会社等

(平成24年3月31日現在)

- センコー商事株式会社
- 株式会社スマイル
- 株式会社丸藤
- 株式会社センコー保険サービス
- センコー情報システム株式会社
- ロジ・ソリューション株式会社
- 株式会社センコー引越プラザ
- センコーエーラインアマン株式会社
- 東京納品代行株式会社
- イマイ運送株式会社
- 中国ピアノ運送株式会社
- 札幌センコー運輸株式会社
- 東北センコー運輸株式会社
- 関東センコー運輸株式会社
- 埼玉センコー運輸整備株式会社
- センコー住宅物流株式会社
- 千葉センコー運輸整備株式会社
- センコーファッション物流株式会社
- 柏センコー運輸株式会社
- 野田センコーロジサービス株式会社
- 神奈川センコー運輸株式会社
- 北陸センコー運輸株式会社
- 富士センコー運輸株式会社
- 大東センコーアポロ株式会社
- 東海センコー運輸株式会社
- 豊橋センコー運輸株式会社
- 三重センコーロジ株式会社
- 滋賀センコー運輸整備株式会社
- 大阪センコー運輸株式会社
- 東京納品代行西日本株式会社
- 南大阪センコー運輸整備株式会社
- 阪神センコー運輸株式会社
- 江坂運輸株式会社
- 阪神運送株式会社
- 奈良センコー物流株式会社
- 岡山センコー運輸株式会社
- 三協貨物株式会社
- 山陽センコー運輸株式会社
- 中四国ロジスティクス株式会社
- 株式会社四国冷凍運輸倉庫
- 福岡センコー運輸株式会社
- 南九州センコー株式会社
- 宮崎センコー運輸整備株式会社
- 宮崎センコーアポロ株式会社
- センコーフーズ株式会社
- 株式会社クレフィール湖東
- S-TAFF 株式会社
- センコービジネスサポート株式会社
- ロジファクタリング株式会社
- センコーメディカルロジスティクス株式会社
- 株式会社センコースクールファーム鳥取
- 富士ラベル株式会社
- 株式会社タカノ機械製作所
- Senko Logistics (USA) Inc.
- Senko (USA) Inc.
- 大連三興物流有限公司
- 扇拡物流 (上海) 有限公司
- 上海扇拡国際貨運有限公司
- 上海斯美榮貿易有限公司
- 広州扇拡物流有限公司
- Senko International Logistics (Hong Kong) Ltd.
- 青島雪興国際物流有限公司
- 瀋陽扇拡物流有限公司
- Senko (Thailand) Co.,Ltd.
- Senko International Logistics Pte. Ltd.
- Senko Logistics Australia Pty Ltd
- Senko - Lancaster Silk Road Logistics LLP
- Japan Select LLP

(注) ○は連結子会社を示しております。

## 株式情報

Stock Information

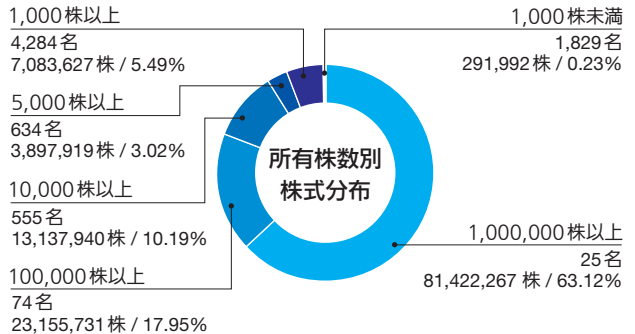
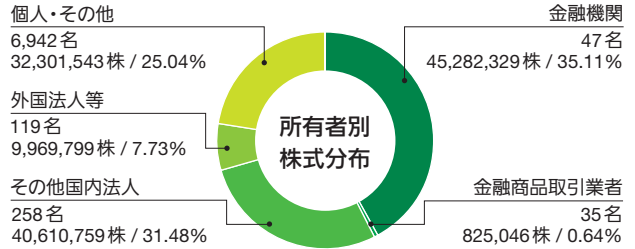
### 株式の状況

(平成24年3月31日現在)

発行可能株式総数 294,999,000株

発行済株式総数 128,989,476株

株主総数 7,401名



### 大株主(上位10位)

(平成24年3月31日現在)

株主名	所有株式数(株)	所有比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	15,692,000	12.17
旭化成株式会社	11,676,726	9.05
センコーグループ従業員持株会	7,740,743	6.00
積水化学工業株式会社	6,785,900	5.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	5,142,000	3.99
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,252,000	3.30
いすゞ自動車株式会社	4,139,689	3.21
東京海上日動火災保険株式会社	3,439,170	2.67
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,169,655	2.46
資産管理サービス信託銀行株式会社	2,561,000	1.99

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.senko.co.jp/">http://www.senko.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

あなたの愛車を守ります  
～センコーの自動車整備～



プロの目と腕で、お車の点検・修理をいたします

センコーグループでは、長年培われた自動車整備のノウハウと、豊富な経験を持つ整備スタッフがトラック、フォークリフトの整備から、乗用車などの車検・整備まで幅広く手掛けております。お気軽にご相談ください。

### お問合せ先

埼玉センコー運輸整備(株) …… 048-723-4714  
 千葉センコー運輸整備(株) …… 0436-23-3991  
 富士センコー運輸(株) …… 0545-64-0310  
 滋賀センコー運輸整備(株) …… 077-568-0411  
 南大阪センコー運輸整備(株) …… 072-336-0153  
 宮崎センコー運輸整備(株) …… 0982-34-5022